

## 教員も、子供たちも

# 主体的・対話的で深い学び

## を実践しよう!



「主体的・対話的で深い学び」の実践に取り組んでいる児童生徒・学校ほど全国学力・学習状況調査の平均正答率が高い傾向があります!

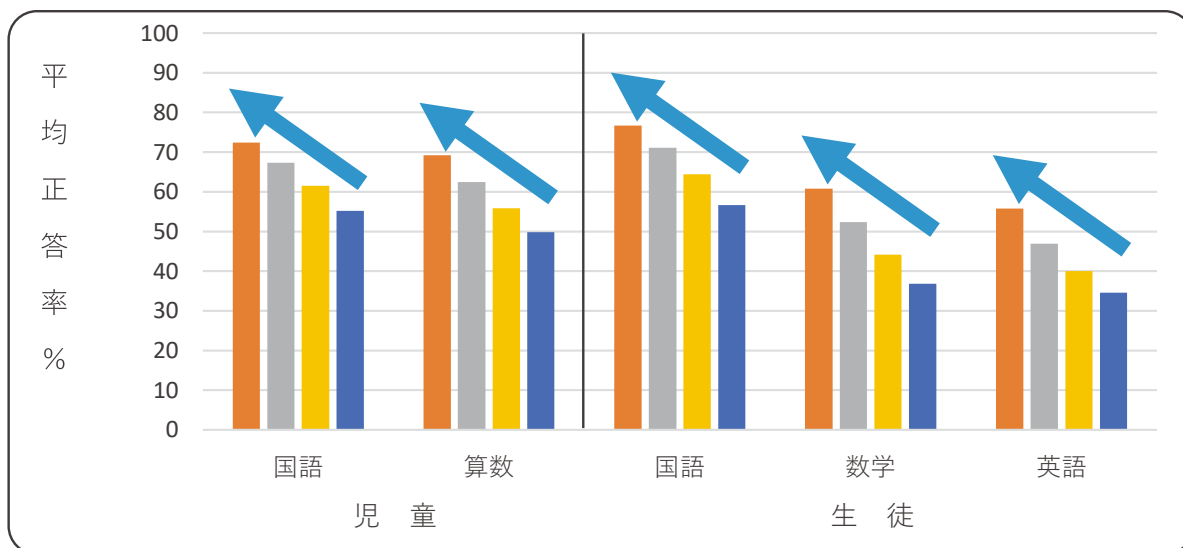
### 児童生徒質問紙調査と平均正答率のクロス集計

問

5年生まで〔(中学) 1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか (問小34・中38)

※全国学力・学習状況調査のデータは、すべて千葉市を含めたデータです。

■ 当てはまる   
 ■ どちらかといえば、当てはまる   
 ■ どちらかといえば、当てはまらない   
 ■ 当てはまらない



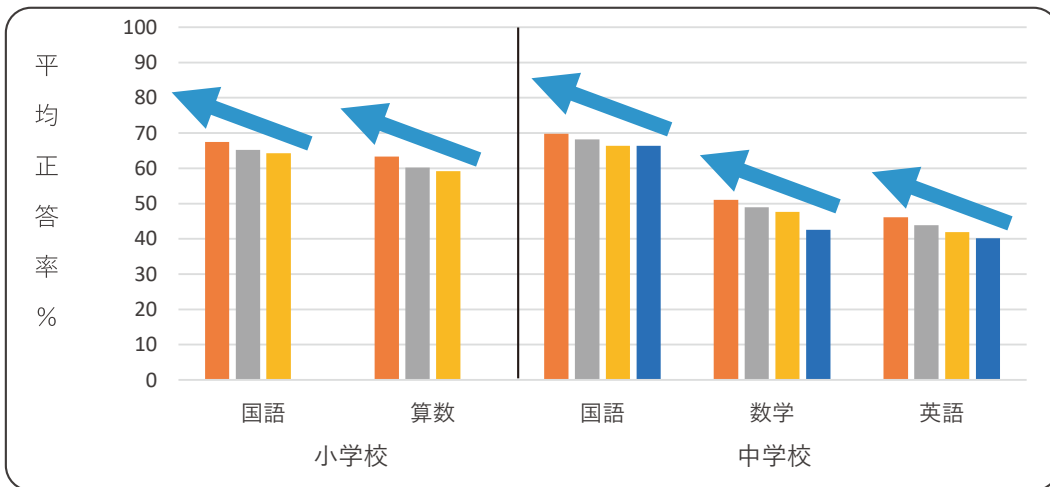
「自分の考えをまとめる活動」を  
行っている児童生徒ほど、  
平均正答率が高い傾向

# 学校質問紙調査と平均正答率のクロス集計

問

調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、授業において、児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか（問33）

■ 当てはまる   
 ■ どちらかといえば、当てはまる   
 ■ どちらかといえば、当てはまらない   
 ■ 当てはまらない



「主体的・対話的で深い学び」に関する指導を取り入れている学校ほど、平均正答率が高い傾向

## 「社会経済的背景(SES)」 「主体的・対話的で深い学び」 「平均正答率」 の関係(三重クロス集計)

蔵書数を家庭の状況の1つの指標として捉え、蔵書数の違いにより平均正答率に差が出てくるか、そして、それに「主体的・対話的で深い学び」の実践がどのように影響してくるか分析しました。

問

あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）（児童生徒質問紙 22）  
**(ア) 0～25冊 (イ) 26～100冊 (ウ) 101冊以上**

※本資料では、文部科学省調査を参考に、「家にある本の冊数」を家庭の社会経済的背景（SES：Socio-Economic Status）の代替指標として用いています。

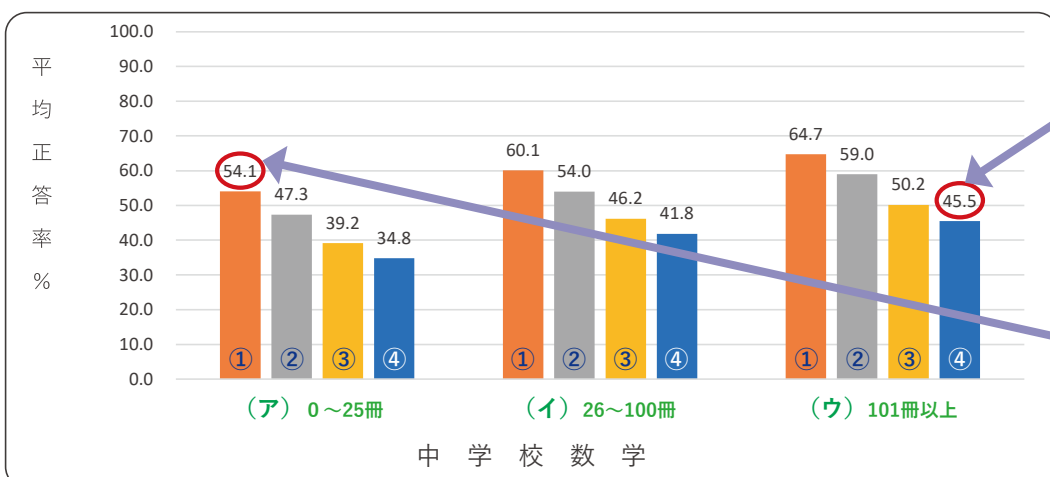
問

5年生まで〔(中学) 1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか（児童生徒質問紙 小32・中36）

- ① 発表していた
- ② どちらかといえば、発表していた
- ③ どちらかといえば、発表していなかった
- ④ 発表していなかった

※「授業で工夫して発表していたか」に肯定的（①、②）に回答している児童生徒ほど、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んでいると考えます。

〔縦軸：平均正答率〕 × 〔横軸：家の蔵書数〕 × 〔グラフ：授業で工夫して発表〕



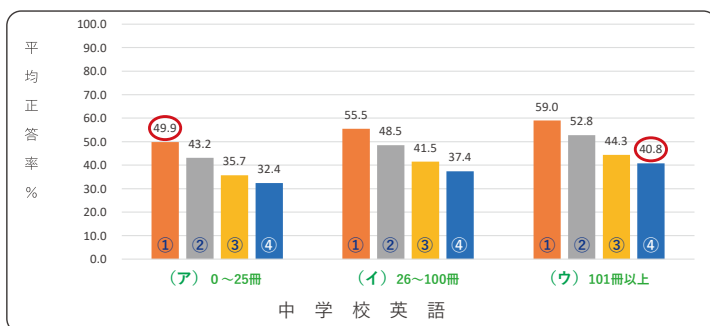
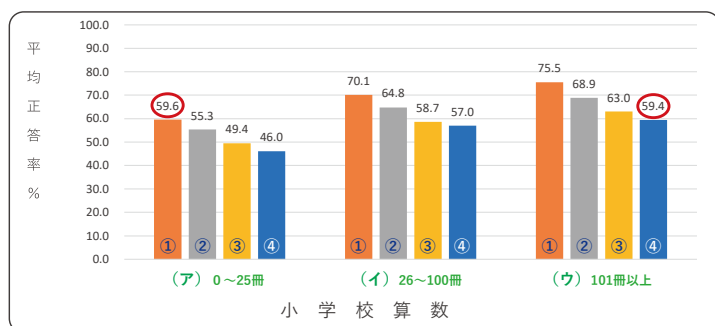
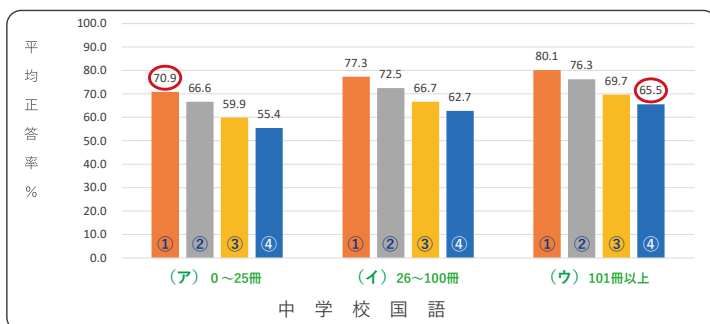
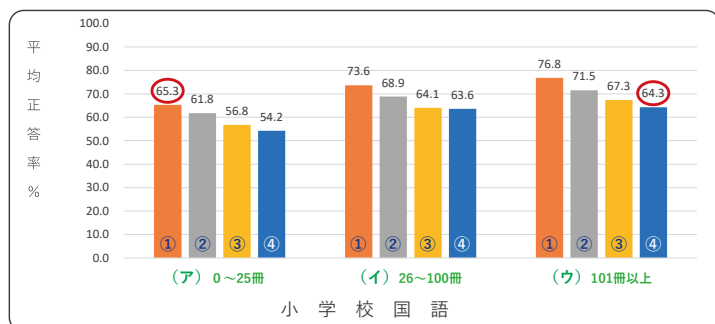
家にある本が101冊以上だが、「授業で工夫して発表していたか」に「④発表していなかった」と回答した生徒の平均正答率は45.5%。

家にある本が0～25冊だが、「授業で工夫して発表していたか」に「①発表していた」と回答した生徒の平均正答率は54.1%。

左下のグラフから、(ウ)、(イ)、(ア)の順に正答率が低くなっていることから、家庭の社会的経済的背景 (SES) が低い児童生徒ほど、中学校数学の正答率が低い傾向が見られます。しかし、ここで (ア) ①のグラフと (ウ) ④のグラフを比べると、

**社会的経済的背景 (SES) が低い状況にあっても、  
「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童生徒は、  
正答率が高いことが分かります。**

小学校国語・算数、中学校国語・英語でも同様の結果です。



**「主体的・対話的で深い学び」は  
家庭の状況を  
克服することができる！**

つまり

**「主体的・対話的で深い学び」の実践は、子供たちに  
「確かな学力」を身に付けさせることができます！！**

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をしていきたいのですが、どうすればよいのでしょうか？



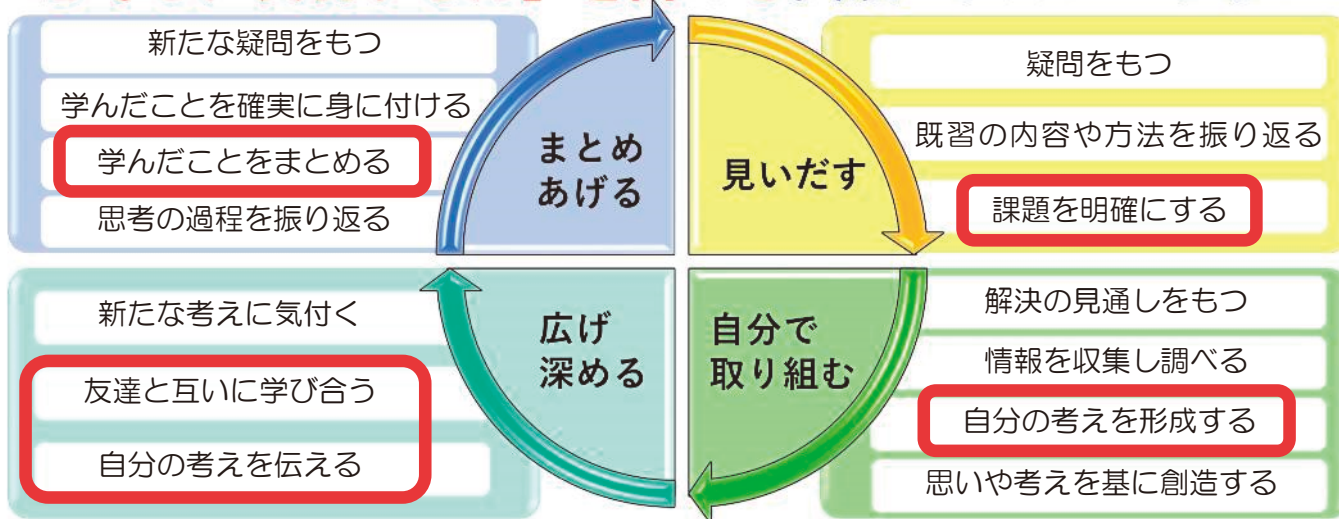
**「主体的・対話的で深い学び」の実践については、次ページ！**

# 実践モデルプログラムを活用しましょう!



「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善には、千葉県が推奨している「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を活用していきましょう。

## 「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」についてはこちら! ▶  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/zissenmoderu/moderupuro.html>

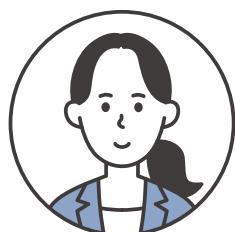


なるほど、この学習過程を意識していけばよいということですね。グループでの話し合いを活性化していきたいと思います!



「主体的・対話的で深い学び」を進めるにあたっては、単に「グループで話し合う」という活動を行えばよいわけではありません。「グループで話し合う」ことによって、どのような資質・能力を身に付けるのか、先生方と子供たちがお互いに理解している、意識している、ということが大切です。

**育成する資質・能力を意識することが大切!**



「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」の学習過程の中で、特に「赤枠」の部分意識して授業改善をしていきましょう! 令和5年度の全国学力・学習状況調査の教科に関する調査結果から課題のあった問題を抽出し、千葉県の先生方に意識していただきたい授業改善のポイントを各教科でまとめ、アイデア例を作成しました。



◀ 調査問題は、国立教育政策研究所HPで確認しましょう

<https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>



ここでは、「小学校・国語」「中学校・数学」「中学校・英語」の授業実践アイデア例を掲載してあります。詳細は、HPで確認しましょう！

授業実践アイデア例（授業全体や単元全体を見通した授業改善の具体例）



# 授業実践アイデア例(小学校・国語)

## 2 問四 [領域「C 読むこと」オ 考えの形成]

[出題の趣旨] 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるか。

- 問題概要 「健康に過ごすために、複数の文章を選んで読み、自分ができそうなことを考えてまとめる。」
- 条件 ① 資料を読んで分かったことについて、次のことを書いている。
  - a 運動について b 食事について
- ② 分かったことをもとに、これから自分ができそうなことを書いている。
- ③ 80字以上、100字以内で書いている。

課題 誤答の解答類型を分析すると、「考えの形成」よりも「資料を読んで分かったことについて書く」という条件を満たしていないものの割合が高い。

### 授業改善案

千葉県の『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』を活用して、単元計画を作成する。  
複数の情報を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる場面を設定する。

### 授業実践アイデア例

### 校長先生に提案しよう



実践モデルプログラム	主な内容	授業改善のポイント
見いだす 課題を 明確にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校長先生の話を受け、校長先生に、校長室で飼いたい生き物について提案する。</li> <li>○提案文の書き方、どのようなことに気を付ければよいか等について考える。</li> <li>○学習計画を立て、単元のゴールまでの流れを確認する。</li> </ul>	目的と相手を明確にすることで、児童に提案するという切実感をもたせる。
自分で 取り組む 自分の考え を形成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本やインターネットで生き物の特徴や飼い方、飼育することのメリット等の情報を集め、自分の提案に必要な情報をメモする。</li> <li>○提案文の条件（文字数、図や写真の入れ方等）を確認する。</li> <li>○目的と相手を考慮して、書き表し方を工夫しながら書く。</li> </ul>	ICTを活用することで、全文を一覧できたり、必要な情報を視覚的に捉えたりすることができるようにする。
広げ深める 友達と互いに 学び合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTのコメント機能やメッセージ機能で、友達や先生とやり取りをする。</li> <li>○友達の意見を参考にしながら、自分の提案文を推敲する。</li> </ul>	ICTのコメントやメッセージ機能を活用することで、自分の意見を再検討することができるようにする。
まとめ あげる 学んだこと をまとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校長先生の前で、提案文を発表する。</li> <li>○友達の提案文のよいところを伝え合う。</li> <li>○自分の提案文のよいところやこの単元で学んだこと、できるようになったこと等について、振り返りを行う。</li> </ul>	振り返りの観点を示すことで、学習を深めることができるようにする。



# 授業実践アイデア例(中学校・数学)

## 8 (3) [領域「C 関数」]

[出題の趣旨] 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。

- 問題概要 「駅伝について、新緑大学の選手が、晴天大学の選手に追いつく地点を求めるための考え方を説明する。」
- 条件 グラフか式のどちらかを選んで、説明する。

課題 事象について、数学的に考察する場面でのアプローチの方法や手順を説明する問題に課題が見られる。

### 授業改善案

授業では、問題解決の構想や見通しを立て、問題解決の方法について説明する活動を重視し、立てた構想や見通しと問題解決の方法の説明について比較し、方法の説明について吟味することで説明を洗練させていく。

### 授業実践アイデア例

## 日常的な事象を数学化し、 問題解決の方法を数学的に説明しよう!

実践モデルプログラム	主な内容	授業改善のポイント
見いだす 疑問をもつ 課題を明確にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>○340万円のハイブリッド車と280万円のガソリン車のどちらの購入がよいか考える。</li> <li>○何年乗り続ければハイブリッド車の方が得になるか考える。</li> </ul>	既習を振り返り、課題を明確にする。学習の見通しをもつ。
自分で 取り組む 情報を収集し調べる 自分の考えを形成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表やグラフを作成し、情報を整理する。</li> <li>○整理した情報から、<b>自分の考えを形成</b>する。</li> </ul>	問題を解決するために必要な情報を整理し、どの方法でどのように解こうとするのか <b>見通しをもって、考える</b> ことが大切。
広げ 深める 友達と互いに学び合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が考えた方法について考えた過程を明確にして<b>グループの仲間に説明する</b>。</li> </ul>	<b>話し合い活動で自分の考えを説明する場面を設定し</b> 、どの方法でどのように求めたのか、数学的な表現を用いながら問題解決の方法を <b>筋道立てて説明</b> できるようにする。
まとめ あげる 思考の過程を振り返る 新たな疑問をもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習を振り返り、分かったことや自分の考えが変わったこと、疑問に思ったこと、もっと知りたいことは何か、共有する。</li> </ul>	ガソリン車とハイブリット車ではどちらの方が総費用が安くなるかについて、表、式、グラフなどを用いて問題解決できるのではないかと見通しや構想を立てることが大切。その上で「総費用は年数の関数である」と捉え、年間の維持費は一定であると仮定して考えるなど理想化したり単純化したりして、関数を活用するよさを実感できるようにすることが大切。





# 授業実践アイデア例(中学校・英語)

## 6 [領域「読むこと」]

[出題の趣旨] 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうか。

●問題概要 「友だちからのメールを読んで、相手が示した条件に合うイベントを選択する。」

- 課題
- ・自分の置かれた状況などから判断して、**必要な情報を読み取る**ことに課題がある。
  - ・日常的な話題について、文と文との関係を正確に読み取ることができているが、短い文章の**概要を捉える**ことに課題がある。
  - ・社会的な話題について、短い文章の**要点を捉える**ことに課題がある。

### 授業改善案

書かれている全てを読み取ろうとするのではなく、目的・場面に応じて、**必要な情報・概要・要点**を読み取れるよう、「読むこと」の指導のポイントを確認する。また、簡単な語句や表現を用いた**言語活動を増やし**、**4技能を統合的に行う**ことで読解力を高めていく。

### 授業実践アイデア例

## 目的に応じて 必要な情報・概要・要点を読み取ろう!



実践モデルプログラム	主な内容	授業改善のポイント
<b>見いだす</b> 課題を明確にする	○友達からのメールを読み、友達が示した <b>時間などの条件を読み取る</b> 。	目的や場面、状況などを設定し、全文を訳そうとするのではなく、 <b>自分が必要とする情報（数字や天気などのキーワード）が何かを意識</b> させてから読ませるようにする。
<b>自分で取り組む</b> 解決の見通しをもつ	○イベントの紹介ポスターについての英文を読み、 <b>概要を捉える</b> 。 ○友達が示した条件に合うイベントについて読み取る。	ワークシートを工夫するなどして、ペアで「5W1H」について質問し合いながら読ませたり、図や表にまとめながら読ませたりするなど、「 <b>思考し、判断しながら学習する場面</b> 」を設定する。 《読むときのポイント》
<b>広げ深める</b> 友達と互いに学び合う	○読み取った内容についてのQ & Aを行う。	・時系列で書かれた文章は、時を表す語句に着目させる。 ・説明文等では、各段落の初めにmain ideaが書かれているので、まず、各段落のはじめの1～2文を読ませるようにする。
<b>まとめあげる</b> 学んだことをまとめる	○友達からのメールとイベント紹介ポスターについての英文を読み、 <b>要点を捉える</b> 。 ○要点を英語で簡単に書く。	<b>筆者の伝えたいことは何かを予想</b> させてから、読ませる。So, Therefore, In conclusionなど <b>結論等を表す語句</b> に着目させる。

# 質問紙調査を活用しましょう！

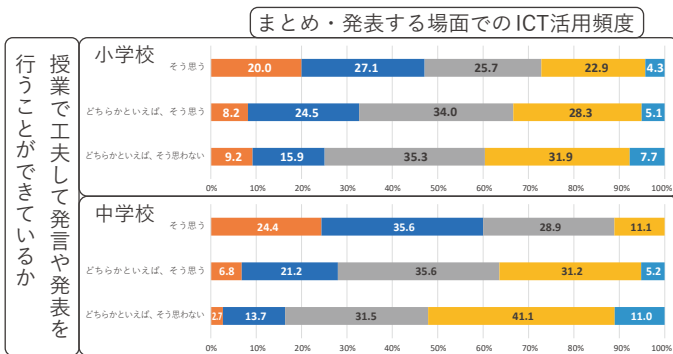


教科に関する調査だけでなく、学校質問紙調査や児童生徒質問紙調査の結果を分析・活用することで、自校の特徴や課題を把握することができ、先生方の授業改善につなげることができます。例えば……

## 学校質問紙調査のクロス集計

**問** 調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか（問27）

**問** 調査対象学年の児童〔生徒〕が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（問小57・中65）

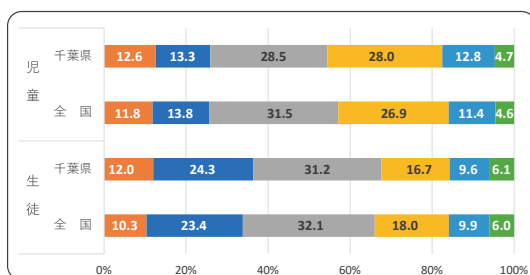


■ ほぼ毎日    ■ 週3回以上    ■ 週1回以上  
■ 月1回以上    ■ 月1回未満

授業で「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善（授業で工夫して発言や発表する）を行っている学校ほど、ICT機器を活用（まとめ、発表・表現する場面でICT機器を使用）している傾向が見られます。質問紙の2つの項目をクロス集計することで新たな視点で分析・活用することができます。

## 児童生徒質問紙調査の状況

**問** 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（問17）



■ 3時間以上    ■ 2時間以上、3時間より少ない  
■ 1時間以上、2時間より少ない    ■ 30分以上、1時間より少ない  
■ 30分より少ない    ■ 30分より少ない

家庭学習時間が多く確保できている児童生徒ほど各教科の平均正答率が高くなる傾向がありますが、自校の児童生徒の状況はどうでしょうか？千葉県や全国平均と比較すると特徴や課題が見えてきます。

## このような取組はどうですか？

※令和4年度学力向上通信特別号から再掲

- ①研究主題と関連する質問紙調査の内容を確認する。  
※各学校で設定している**研究主題と関連する質問項目**を児童生徒質問紙、学校質問紙の両方から選んでみましょう。  
(例)「ICT活用」「対話的な学習の充実」
- ②児童生徒に向けては……(児童生徒質問紙調査の内容) →**学期末や単元末などの振り返りで質問項目に追加して年間の推移を見取る。**  
先生方に向けては……(学校質問紙調査の内容) →**先生方の学期の振り返り**でその推移を見取る。
- ③**確認テストなどの結果とアンケート結果について相関関係等を調べる**ことで、取組状況と**学力向上に対する効果を検証**することが可能です。



授業改善のポイントや質問紙調査の活用について  
分かりますね。  
他にも全国学力・学習状況調査の活用や学力向上  
に役立つ資料はありませんか？



下のコンテンツを参考にしましょう！  
また、令和3年度、令和4年度の資料  
も活用してください。

### 課題別実践アイデア例

全国学力・学習状況調査の教科に関する調  
査結果から課題となる点に対して重点的に  
効果を発揮できる取組を紹介しています。

### 令和5年度

全国学力・学習状況調査活用の手引き  
千葉県の結果や、「分析シート」の使い方、校  
内研修の具体例などについて紹介しています。

課題	
【算数】図形の意味や性質についての理解が十分ではない	
手立て	観察や構成などの活動を通して図形の意味や性質について考察させる
具体例	<p><b>POINT① 図形理解の基礎となる経験を豊かにするための操作活動の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○低学年の頃から紙を折ったり、紙を折ったりする活動を十分に確保する。</li> <li>○「ころがる」「積める」など、低学年のうちから機能的な側面に触れさせる。</li> <li>○操作活動から生まれる子どもたちの気付きやつゆやきを大切にさせる。</li> </ul> <p><b>POINT② 図形の性質を活用する場面の設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○図形を構成する要素に着目させ、既知事項をもとに面積や体積の求め方を考えさせたり、理由を説明させたりする。</li> <li>○図形の面積を求めるにはどの部分の長さが影響が判断する活動や等積図形で面積を比較する活動などを取り入れる。</li> <li>○図形を構成する要素の位置関係に着目させて、図形を分類させる活動を大切にさせる。</li> </ul> <p><b>POINT③ 日常生活の場面との関連を図る活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○図形や拡大図の考えを活用して、本の高さや校舎、池など身近な場所の測量をさせる。</li> <li>○教室や体育館などで、図形を探したり見つけたりさせることで、図形の感覚を豊かにさせる。</li> <li>○図形の性質を生かして数直線の標線などのデザインを創案させる。</li> </ul>

F04-02  
研究報告 第461号

**令和5年度  
全国学力・学習状況調査  
活用の手引き**

令和5年11月  
千葉県総合教育センター



◀ 千葉県総合教育  
センターのトップ  
ページからダウン  
ロードできます

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の必  
要性や全国学力・学習状況調査の活用については分かりま  
したが、千葉県の他の課題の状況はどうなっていますか？



千葉県の課題の状況は、次ページ！

# 千葉県の課題は解決してきた？



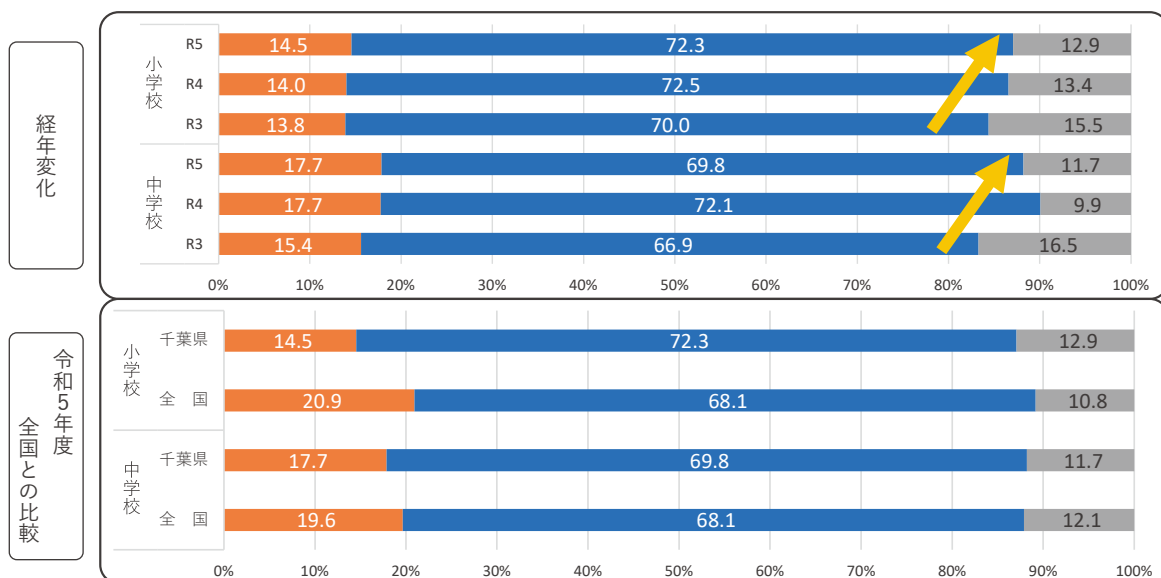
以下の項目は、全国平均には及ばないものの先生方の地道な取組により、改善傾向！  
**より一層、意識して取り組んでいきましょう！！**

## 課題：探究的な学びの実践が全国と比較し低い

問

調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか（学校質問紙調査 問34）

よく行った    どちらかといえば、行った    あまり行わなかった    全く行わなかった

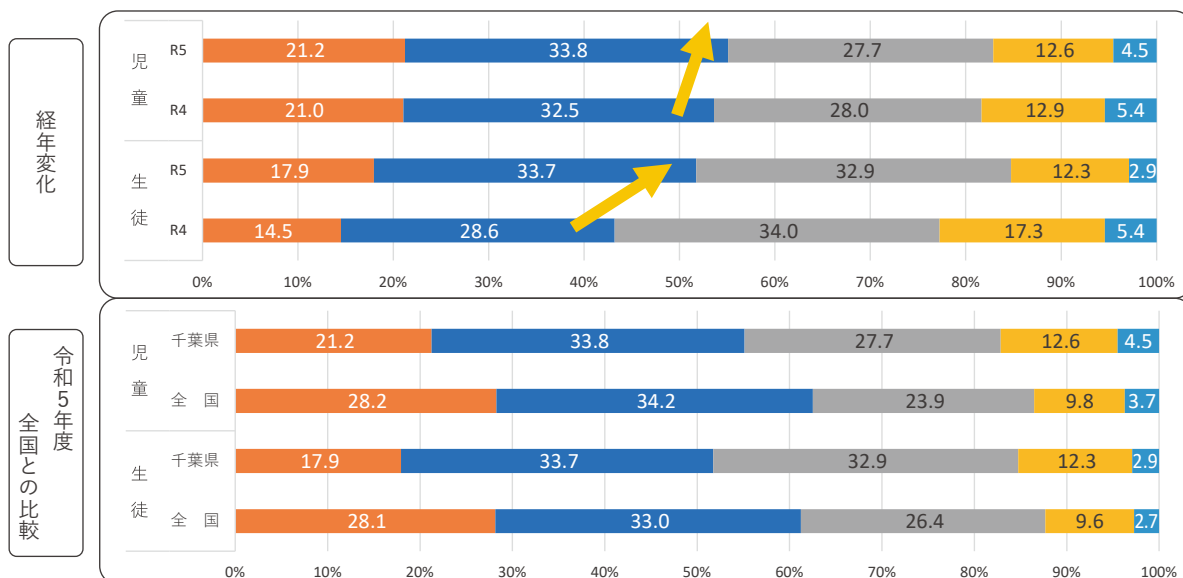


## 課題：ICT機器の活用頻度が全国と比較し低い

問

5年生まで〔(中学) 1、2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか（児童生徒質問紙 問小29・中33）

ほぼ毎日    週3回以上    週1回以上    月1回以上    月1回未満

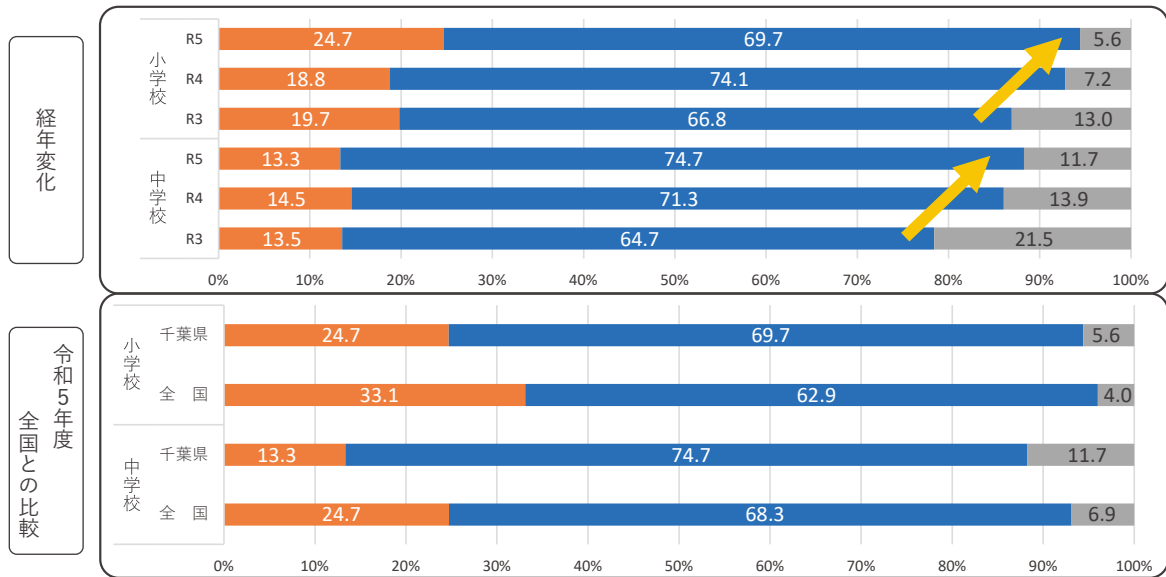


課題：調査結果の活用が全国と比較し低い

問

令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか（学校質問紙 問小78・中86）

よく行った    どちらかといえば、行った    あまり行わなかった    全く行わなかった



課題：「記述式」の正答率が低い・無解答率が高い

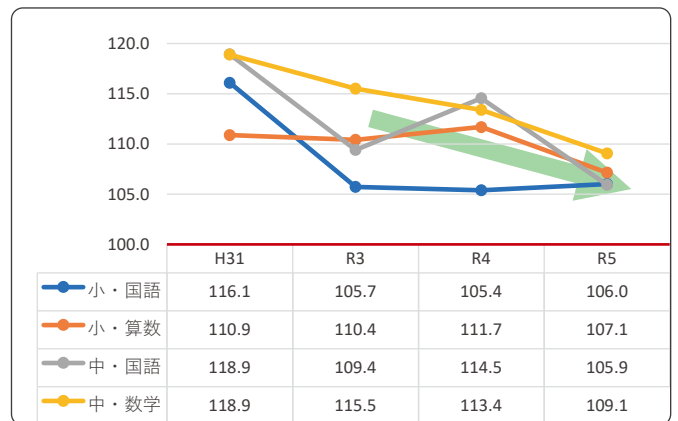
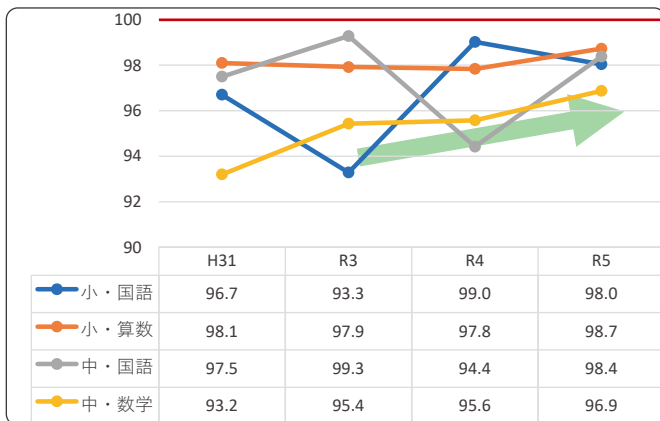
【本県の記述式問題の平均正答率と無解答率の推移】

平均正答率

※100が全国平均

無解答率

※100が全国平均



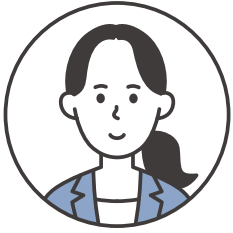
「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の実践、キーワード「学習のまとめを自分の言葉で書く」を意識した取組により、改善してきています!!

千葉県の状況も分かりました。より一層の取組を進めていくためには、どうしていけばよいのでしょうか？



学力向上に効果的な取組は、次ページ！

# 学力が向上した取組の4つの共通点！



下記は千葉県内で実際に学力向上の成果をあげている小・中学校の実践例です。「チーム学校」として学力向上に取り組むことで大きな効果が見込めます。

大切なことは、効果の検証方法を数値化するなどして、事前に決めておくことです。実践するだけで満足せず、ねらいを達成できたか必ず検証しましょう。

## 学力向上推進体制

### ポイント：学力向上部会を組織として位置づける

- ・全国学力・学習状況調査の問題や自校の解答状況をチームで分析
- ・全教員が一斉に全国学力・学習状況調査を実際に解いてみる時間を確保
- ・ミドルリーダーや管理職による教科部会の参観及び指導・助言
- ・中学校区間で、意見交換会（オンライン会議を有効活用）
- ・少人数指導や教科担任制の工夫

## 授業改善の手立て

### ポイント：全学年・全教科同一步調の共通理解

- ・視覚的に意識できる「授業改善チェックシート」作成
- ・ベテラン・中堅の技術を若手に継承するメンター制の教材研究・授業研究
- ・PDCAサイクルをまわしやすい「具体的な研究主題」の設定
- ・ICTの効果的な活用方法を検討する校内研修
- ・若手からベテランまで徹底すべき「学校の実態に応じた学習スタンダード（規律）」の確立

## 学力が伸びる教育課程の工夫

### ポイント：子供が学びやすい環境を整える

- ・全国学力・学習状況調査結果や学校評価アンケートの結果を反映した教育課程編成
- ・各学年（縦）と各教科（横）の単元計画のすり合わせと重点指導項目の共通確認
- ・朝ドリルや朝読書などのモジュールを活用した学習習慣の確立
- ・年間行事計画の中に「学力向上週間（月間）」を位置づける
- ・教材研究確保のための行事数及び内容の精選

## 家庭・地域との連携

### ポイント：学校外の人的資源・物的資源を有効活用

- ・家庭学習だよりの発行（目標時間や家庭学習の方法を周知）
- ・自主学習ノートの活用と優良ノートの表彰
- ・全国学力・学習状況調査から得られた課題やその改善策を保護者会、学校だよりで情報共有
- ・生活習慣チェックシートによる自己評価の促進
- ・地域から「読み聞かせ」「学習支援員」「ICT補助員」等のボランティアを募集